

平成30年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第5節家庭・地域の教育力の向上
施策名	1. 家庭教育支援体制の充実

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	現状と課題	<p>家庭教育は、乳幼児期を出発点として信頼感や自立心、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるためのしつけを行うなど、人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。</p> <p>そのため、親が家庭教育の大切さを実感できるよう、家庭の教育力向上を目指した取組などを展開することで、支援する輪を広げていくことが必要となっています。</p> <p>学校などを地域の学習・交流拠点として活用し、地域の人たちが主体的に参画することを通じて地域の教育力を高め、人と人のつながりや学校・家庭・地域の連携を推進していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	家庭教育学級の参加人数	1,848人
(2)	親の学習子育て講座の参加人数	500人	
(3)			
(4)			

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	2,244人	1,992人	1,914人	623人	3,000人
(2)	546人	437人	434人	430人	500人	
(3)						
(4)						

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	938	856	0	0	0	856

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・7校合同家庭教育学級(夢・ときめき・ふれあいコンサート)が、関係機関と日程調整がつかずに実施できなかったため、前年度より参加者が減少し、家庭教育学級の延べ参加者は623人であった。しかし、各校における家庭教育学級は、食育や人権に関する内容を中心に実施することができた。 ・就学時検診に併せ「親の学習子育て講座」を実施し、4小学校合計で430名の参加があった。子育てアドバイザーの助言をもとに保護者が一同に会し、子育てについて見つめ直すことで家庭の教育力の向上が図られた。 ・町PTA連合会は定期的に会議を開き活発な意見交換を行い、横の連携と青少年に係る情報共有に努めた。 	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・南部、中部地区は少子高齢化が進んでおり、北部地区は子育て世代の流入が止まり、若干ではあるが減少気味である。 ・共働きの家庭が多くなっている。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAのあり方・方向性について、見直す動きが出始めている。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA家庭教育学級のプログラム企画立案にあたり、PTAの要望を取り入れたり、社会教育指導員が企画内容に助言をすることで適切な事業が実施された。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域の理解と協力なくして事業を進展させることは難しい。 ・共働き世帯の増加により、事業に参加しづらいのが現状である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級は、家庭・学校・地域社会が互いに連携し、継続することが肝要である。 ・地域の指導者を積極的に活用し、魅力ある事業を展開していきたい。 ・家庭教育学級の事業内容が、カルチャー志向の傾向にあるので、参加者の意向を反映させつつ学習プログラムを見直していく。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の学校が合同開催することで、事業の効率化・予算の軽減化がなされている。
----------------------	--

平成30年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第5節家庭・地域の教育力の向上
施策名	2. 地域の教育力の向上

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	現状と課題	<p>家庭教育は、乳幼児期を出発点として信頼感や自立心、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるためのしつけを行うなど、人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。</p> <p>そのため、親が家庭教育の大切さを実感できるよう、家庭の教育力向上を目指した取組などを展開することで、支援する輪を広げていくことが必要となっています。</p> <p>学校などを地域の学習・交流拠点として活用し、地域の人たちが主体的に参画することを通じて地域の教育力を高め、人と人のつながりや学校・家庭・地域の連携を推進していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	家庭教育学級の参加人数	1,848人
	(2)	成人式の出席率	73.33%
	(3)		
	(4)		

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	2,244人	1,992人	1,914人	623人	3,000人
	(2)	73.33%	77.06%	78.90%	74.30%	75.00%
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,605	1,603	0	0	0	1,603

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・新成人者の門出を祝福するとともに、新成人者自身が社会の一員として権利・義務の責任ある行使と、独立した個人としての誇りを認識する良い機会となった。 ・該当者494名に対し、367名の出席者となり、出席率74.3%であった。 ・社会教育関係団体に活動費の補助金を交付することにより、充実した活動が行われた。 ・町子ども育成会連絡協議会が力を入れている「彩の国郷土かるた」では、北支部大会において一般の部個人戦と低学年の部個人戦で3位に入賞した。県大会では、団体戦・個人戦に出場した全員が1勝以上をあげ結果を残している。 ・ボーイスカウトや町地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会は、明るい地域社会と環境浄化に多大な貢献をしている。 	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人対象者及び出席者が増え、会場が手狭になりつつあり、式典の二部制開催に向け検討する必要がある。 ・青少年相談員や子ども会など、年々入会する人が少なくなっている。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・成人式を同窓会と同様と考えている成人者が増えた。厳かな雰囲気から和やかな雰囲気へと変わってきている。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・成人式準備会を開催し、新成人者のニーズを取り入れており、適切に実施されている。 ・青少年健全育成推進事業は、各推進部会が活発な活動を行い、適切に事業を実施した。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・成人式実行委員会の実行委員として活動する新成人者が少なく、委員一人に掛かる負担が増えている。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人者の意見を積極的に取り入れ、時代に即した成人式を開催していく。 ・迷惑行為を防止するために注意喚起を行い、事業終了後、速やかに解散するよう促していく。 ・社会教育関係団体における会員数増加の方策を検討し、各団体と連携して後継者育成を推進する。 ・民法改正による成人年齢引き下げに伴い、2022年以降の成人式の時期やあり方について情報収集し、検討を進める必要がある。
---------------------	---

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は町予算から新成人者全員に対し記念品を差し上げていたが、抽選にすることで歳出を大幅に削減できた。 ・県派遣講師(無料)を青少年育成講演会で利用することにより、経費節減に努めている。
----------------------	--

平成30年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第5節家庭・地域の教育力の向上
施策名	3. 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	現状と課題	<p>家庭教育は、乳幼児期を出発点として信頼感や自立心、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるためのしつけを行うなど、人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。</p> <p>そのため、親が家庭教育の大切さを実感できるよう、家庭の教育力向上を目指した取組などを展開することで、支援する輪を広げていくことが必要となっています。</p> <p>学校などを地域の学習・交流拠点として活用し、地域の人たちが主体的に参画することを通じて地域の教育力を高め、人と人のつながりや学校・家庭・地域の連携を推進していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	家庭教育学級の参加人数	1,848人
	(2)	親の学習子育て講座の参加人数	525人
	(3)		
	(4)		

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	2,244人	1,992人	1,914人	623人	3,000人
	(2)	546人	437人	434人	430人	500人
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	938	856	0	0	0	856

今年度の施策達成度	B	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプに小・中学生が124名の申込みがあり、大地震の発生から体育館における避難所の立上げをテーマに防災体験を行う予定で準備を進めていたが、猛暑により、参加者の健康面を考慮し中止した。 ・Waku楽体験教室を16教室(21回)開催し、述べ233人の参加があった。放課後子供教室を14教室(14回)開催し、延べ386人の参加があった。 	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・南部・中部地区は少子高齢化が進んでおり、北部地区は子育て世代の流入が落ち着いてきた。 ・共働きの家庭が多くなってきている。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・土日を主体とした事業に、親の参観希望が増加している。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の向上により、準備の段階から地域の人たちが積極的に事業に協力し、指導者としても参加する予定であった。 ・地域の方々を講師に招き、教室や講座を開催することにより、児童・生徒が地域とのつながりを深めることができた。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域の協力なくして事業を発展させることは難しい。 ・防災キャンプは、これまで小学校の体育館を避難場所と想定して行っていたが、今後は開催場所を見直す必要がある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプ実行委員会を立上げ、地域の方々の協力を得ながら、より中身の濃い事業を実施していく。参加者の健康面(熱中症防止)を考慮し、実施会場を小学校の体育館ではない場所を検討する必要がある。 ・その一方、学校の業務改善も進められ、連携のあり方を検討する必要がある。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プログラムに町民ニーズを積極的に取り入れ、効果的かつ効率的な事業を展開している。
----------------------	---

平成30年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第6節生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進
施策名	1. 学び合いの生涯学習の推進

施策の内容 現状と課題	生涯にわたり学習やスポーツを楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに活かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が高まっています。
	生涯を通じた学習への取組は、多種多様に行われており、健康増進、趣味・教養講座への高い要望がある一方で、学んだことを積極的に地域や社会に還元しようとする人も増えています。 誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことのできる環境の整備が求められていますが、本町では、町内の全小中学校、高等学校、大学とも連携して各種事業や講座を開催し、学習ニーズの多様化、高度化に対応しています。生涯学習の拠点である公民館のある総合センター及び図書館は、老朽化への対応が必要となっています。 スポーツについては、健康志向の高まりを背景に健康づくりとして推進する必要がありますが、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。スポーツ施設は屋内・屋外とも不足がちとなっており、計画的な改修や用地の確保などが必要となっています。また、不足している指導者の育成にも力を入れていく必要があります。 町内には「小貝戸貝塚」や「伊奈氏屋敷跡」など町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠くことのできない文化財が多くあります。それらの文化財を継承することは郷土に対する関心を高め、町民の連帯感を育むことにつながることから、優れた文化遺産の歴史的価値の十分な認識と適切な保護を図り、町民が歴史や文化にふれる機会を増やすことが必要となっています。

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	学校開放講座の参加者数	806人
(2)	図書館の蔵書数	121,971冊	
(3)			
(4)			

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)		1,215人	1,155人	1,003人	906人
(2)		126,688冊	129,139冊	129,169冊	126,935冊	130,000冊
(3)						
(4)						

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	146,848	146,434	0	0	0	146,434

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)

施策達成度の理由 (施策に対する今年度の実績及び効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館においては、WebOPACでの書影の表示を開始し、利用者に好評であった。また、高齢者施設への団体貸出サービスの開始や集会室を学習室として夏季期間中に開放するなど利便性の向上を図ることができた。 ・ゆめくるは、LED化工事が完了し駐輪ラックを新設した。多種多様な講座の開設により、町民の幅広いニーズに応える学習機会を提供できた。 ・ゆめくるで活動している運動系サークルは、高齢化による解散で減少傾向にあるが、文化系サークルの立ち上げもあり、今後も支援していきたい。 ・人材バンク登録者の紹介や登録者によるパソコン寺子屋の運営は、受講者人数が多く安定している。
--------------------------------	---

施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に対する住民ニーズは、年々多様化・高度化している。 ・ゆめくるのトレーニングジム利用者が多くなり、時間帯によっては利用しづらくなっている。 ・ゆめくるの施設利用率が、町の人口増の鈍化により頭打ちになってきている。
施策実現のための課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に対する住民ニーズは、年々多様化・高度化している。 ・流行や人気は変化があるので、動向を的確に捉える必要がある。
展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は、利用者から一定の評価を得ている。学習成果を個人に留まらず、地域社会へ活かす環境づくり、働きかけが必要である。 ・教室(講座)終了後、サークル化へ発展するかが、今後のテーマとなっている。
施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ個人学習で終了となっている。趣味として活動するためのサークルの紹介、新規サークル立上げの働きかけや指導者への育成も今後必要である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業内容の更なる充実を図る。 ・事業結果を踏まえて、実施内容を再検討していく。 ・施設の老朽化に対する適切なメンテナンス等の管理運営を行う。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の多様な要望に応えるべく、図書館とゆめくるに指定管理者制度を導入し、コストとニーズの双方を意識しながら運営を行ってきている。 ・定期的に利用者アンケートを行い、利便性の向上を図っている。 ・各種講座については、多くの町民に参加してもらうために、今後も広報紙やホームページ、フェイスブック、いなナビを活用していく。
----------------------	---

平成30年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第6節生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進
施策名	2. 文化芸術の振興と伝統文化の継承

施策の内容	目指す姿	生涯にわたり学習やスポーツを楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに活かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が高まっています。
	現状と課題	<p>生涯を通じた学習への取組は、多種多様に行われており、健康増進、趣味・教養講座への高い要望がある一方で、学んだことを積極的に地域や社会に還元しようとする人も増えています。</p> <p>誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことのできる環境の整備が求められていますが、本町では、町内の全小中学校、高等学校、大学とも連携して各種事業や講座を開催し、学習ニーズの多様化、高度化に対応しています。生涯学習の拠点である公民館のある総合センター及び図書館は、老朽化への対応が必要となっています。</p> <p>スポーツについては、健康志向の高まりを背景に健康づくりとして推進する必要がありますが、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。スポーツ施設は屋内・屋外とも不足がちとなっており、計画的な改修や用地の確保などが必要となっています。また、不足している指導者の育成にも力を入れていく必要があります。</p> <p>町内には「小貝戸貝塚」や「伊奈氏屋敷跡」など町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠くことのできない文化財が多くあります。それらの文化財を継承することは郷土に対する関心を高め、町民の連帯感を育むことにつながることから、優れた文化遺産の歴史的価値の十分な認識と適切な保護を図り、町民が歴史や文化にふれる機会を増やすことが必要となっています。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	学校開放講座の参加者数	806人
(2)	図書館の蔵書数	121,971冊	
(3)	町展の出品者数	98名	
(4)			

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)		1,215人	1,155人	1,003人	906人
(2)		126,688冊	129,139冊	129,169冊	126,935冊	130,000冊
(3)		106名	103名	102名	107名	130名
(4)						

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,525	1,501	0	0	0	1,501

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・学習した成果の発表の場として、総合文化祭を11月10日から11月11日の2日間にわたり開催し、約7,500人の来場者だった。 ・伊奈町文化協会に加盟している団体においては、各団体が積極的に活動を行い、展覧会や発表会を開催し、大きな成果を出している。 ・町展を10月16日から10月21日の6日間にわたり開催し、107名・127点の出品があり、町の文化芸術の向上に寄与した。 	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に対する住民ニーズは多様化・高度化している。 ・伝統芸能を継承する若者が減少しており、解散を余儀なくされた団体もある。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進・趣味・教養に関する講座に対し、質の高いものを求める傾向にある。 ・流行や人気には変化があるので、状況をリサーチして事業を企画する必要がある。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は概ね高評価であった。 ・学習成果を個人に留まらず、地域社会へ還元し活用できる環境づくりを推進する。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の構成員が高齢化してきているので、若者の参加と後継者育成が課題である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業参加者の意見を取り入れた新事業を実施する。 ・事業結果を踏まえ、事業内容の検討を行う。 ・青少年対象の教室・講座が団体後継者育成へと繋がっていくよう工夫していく。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・県指定史跡である伊奈氏屋敷跡を貴重な文化遺産と捉え、地域住民と関係機関を交え協議、調整を行い整備しつつ協働のまちづくりを目指していく。
----------------------	--

平成30年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第6節生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進
施策名	3. スポーツを通じた元気なまちづくり

施策の内容	目指す姿	生涯にわたり学習やスポーツを楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに活かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が高まっています。
	現状と課題	<p>生涯を通じた学習への取組は、多種多様に行われており、健康増進、趣味・教養講座への高い要望がある一方で、学んだことを積極的に地域や社会に還元しようとする人も増えています。</p> <p>誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことのできる環境の整備が求められていますが、本町では、町内の全小中学校、高等学校、大学とも連携して各種事業や講座を開催し、学習ニーズの多様化、高度化に対応しています。生涯学習の拠点である公民館のある総合センター及び図書館は、老朽化への対応が必要となっています。</p> <p>スポーツについては、健康志向の高まりを背景に健康づくりとして推進する必要がありますが、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。スポーツ施設は屋内・屋外とも不足がちとなっており、計画的な改修や用地の確保などが必要となっています。また、不足している指導者の育成にも力を入れていく必要があります。</p> <p>町内には「小貝戸貝塚」や「伊奈氏屋敷跡」など町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠くことのできない文化財が多くあります。それらの文化財を継承することは郷土に対する関心を高め、町民の連帯感を育むことにつながることから、優れた文化遺産の歴史的価値の十分な認識と適切な保護を図り、町民が歴史や文化にふれる機会を増やすことが必要となっています。</p>

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	町スポーツ施設の利用人数	310,492人
(2)		
(3)		
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	291,460人	309,474人	318,073人	300,942人	360,000人
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	20,956	19,805	0	0	1,885	17,920

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)

施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・真夏の暑さやゲリラ豪雨等の自然災害に対応した安全な施設提供ができた。 ・施設備品等、経年劣化している箇所については計画的に更新することにより、利用者に対し快適なスポーツ活動の場を提供することができた。 ・各種スポーツ教室等の開催により町民の健康づくりのサポートをしている。
----------------------------	---

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の施設の老朽化や備品等の経年劣化により計画的な更新が必要となっている。 ・老若男女が安心して活動できる場の提供が必要となってきた。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の充実を求める声が増えてきている。 ・各年代の方々が楽しめるスポーツ教室等の開催が必要とされてきている。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・開催した各種スポーツ教室において、合算して8割以上の申し込みがあり、町民のスポーツに対する関心がかかる。 ・各種スポーツ教室を通してスポーツ愛好者の増加、継続しての参加等の効果も得られ、事業は適切であったと考える。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・より充実した事業を展開するには、スポーツ施設の整備が課題である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・丸山スポーツ広場テニスコートの改修を行う。 ・各施設の維持管理等を計画的に進める。 ・利用者のニーズに応じた安全な施設運営を行う。 ・町主催のスポーツイベントについては、関係団体と連携して事業の充実を図っていく。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な施設点検や利用者からの情報提供により、限られた予算の中で優先順位を決め適切な維持管理を行った。
----------------------	--

平成30年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第6節生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進
施策名	4. 文化財及び町史(古文書等)の保護・保存・活用

実施の内容 現状と課題	<p>生涯にわたり学習やスポーツを楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに活かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が高まっています。</p>
	<p>生涯を通じた学習への取組は、多種多様に行われており、健康増進、趣味・教養講座への高い要望がある一方で、学んだことを積極的に地域や社会に還元しようとする人も増えています。</p> <p>誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことのできる環境の整備が求められていますが、本町では、町内の全小中学校、高等学校、大学とも連携して各種事業や講座を開催し、学習ニーズの多様化、高度化に対応しています。生涯学習の拠点である公民館のある総合センター及び図書館は、老朽化への対応が必要となっています。</p> <p>スポーツについては、健康志向の高まりを背景に健康づくりとして推進する必要がありますが、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。スポーツ施設は屋内・屋外とも不足がちとなっており、計画的な改修や用地の確保などが必要となっています。また、不足している指導者の育成にも力を入れていく必要があります。</p> <p>町内には「小貝戸貝塚」や「伊奈氏屋敷跡」など町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠くことのできない文化財が多くあります。それらの文化財を継承することは郷土に対する関心を高め、町民の連帯感を育むことにつながることから、優れた文化遺産の歴史的価値の十分な認識と適切な保護を図り、町民が歴史や文化にふれる機会を増やすことが必要となっています。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	指定文化財の数	17件
(2)			
(3)			
(4)			

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	18件	18件	21件	22件
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	14,603	13,939	3,386	0	137	10,416

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)			<ul style="list-style-type: none"> ・久保山遺跡における試掘調査で遺構を検出したため、発掘調査を行い記録保存を行った。 ・大島家住宅主屋が伊奈町初となる国登録有形文化財に登録され、多くの方が見学することで、文化財を保護・継承する気運を醸成した。 ・郷土資料館における中学生社会体験チャレンジ事業や研修の受入、体験学習や企画展の実施により、町立郷土資料館の役割などを広く周知し、文化財に対する興味・関心を得られた。 ・『伊奈町史通史編Ⅲ』の刊行に向けて町史編さん委員会で検討した。 ・書籍『伊奈忠次の生涯』を刊行し、伊奈忠次の功績を広く周知し、興味・関心を高めた。 ・伊奈氏屋敷跡保存活用計画を策定し、保存・活用の方針を定めるとともに、散策路に誘導標識(5基)、二の丸跡説明板を整備し、見学しやすい環境を整えた。

施策の実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地内における開発に伴う試掘調査件数が増加している。 ・伊奈氏関連事業の展開により、伊奈氏(伊奈氏屋敷跡)の認知度が高まり、伊奈氏(伊奈氏屋敷跡)の歴史や遺構についての問合せや講師依頼が増えている。 ・世代交代や住宅の建替えによる資料寄贈の依頼が微増している。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館の展示内容(展示品)の充実、パンフレットを希望する問合せが増加している。 ・伊奈氏屋敷跡の現状を活かして、遺構がわかりやすく、見やすくなるような見学環境をつくってほしいという問合せが寄せられている。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・伊奈氏関連事業を展開した結果、伊奈氏やその周辺人物、伊奈氏屋敷跡についての問合せが増え、伊奈氏に関連する事項の認知度が高まるとともに、講師やツアーガイドの依頼が増えている。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・町史編集事業の過程で収集した資料や寄贈資料、試掘(発掘)調査出土遺物などが増加し、資料の整理・調査が進んでいない。また、保管場所や展示場所が不足している。 ・電子機器等の不足により、資料を活かせず、問合せや依頼に十分に答えきれていない。 ・公文書を歴史的資料として保存するための枠組みを整備する必要がある。 ・埋蔵文化財についての理解を深めるための周知を図る必要がある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・伊奈氏屋敷跡の保存・整備・活用をより具体的に定めた「伊奈氏屋敷跡整備基本計画(仮)」や「伊奈氏屋敷跡整備実施計画(仮)」の策定を見据え、「伊奈氏屋敷跡保存活用計画」を基にした継続的な確認(発掘)調査等の各種調査を行う。 ・『伊奈町史 通史編Ⅲ』の令和2年度の刊行に向けた諸作業を行う。 ・過去の試掘(発掘)調査で出土した遺物の再整理(報告書の刊行含む)の実施する。 ・町立郷土資料館所蔵資料の整理作業を実施する。 ・『文化財保存活用地域計画』の策定を見据えた、町内に所在する文化財の悉皆調査を実施する。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・伊奈町の地理・自然・歴史あるいは町内所在の文化財などについて、もっと知りたいという住民のニーズに応えるため、資料の収集・整理・保存・調査・公開・活用を進めているところではあるが、より効果的・効率的に進めていく必要がある。また、取組の周知を図るための広報活動について、イベントごとにポスターやチラシ、簡易パンフレットを作成、配布している。このような活動をより積極的に進めていくことで歴史・文化への意識高揚を促進することが重要である。
----------------------	--

平成30年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第5章町民と行政が協働するまちに暮らす
節名	第5節人権尊重と平和意識の啓発推進
施策名	1. 人権・同和教育啓発の推進

施策の内容	目指す姿	誰もが互いの人権を尊重し合う中で、自分らしく生きる社会が形成されています。また、平和意識が世代を超えて継承されています。
	現状と課題	<p>基本的人権は、日本国憲法において侵すことのできない永久の権利としてすべての人に保証されています。しかしながら、同和問題をはじめとして女性、子供、高齢者、障がい者などの人権に対する様々な課題に加え、インターネットによる人権侵害や社会構造の変化に伴う新たな人権課題も顕在化してきています。</p> <p>すべての人の基本的人権を尊重するためには、一人一人が人権を身近な問題として捉え、人権について正しく理解し、人権意識を高めていくことが大切です。本町では、人権講座や研修会などの教育・啓発活動に継続的に取り組んできました。今後も講習会等に気軽に参加できる環境づくりを進め、より多くの人の意識啓発に努めていく必要があります。</p> <p>平和意識の醸成において、町では平成15年3月に平和都市を宣言し、平和な社会の実現に向けた平和意識の高揚や啓発を図っているところです。戦後70年近くが経過し、戦争を知る世代が少なくなりつつあります。戦争の悲惨な記憶を風化させないためにも、学校などと連携しながら平和に関する学習を継続し、次の世代に継承していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	人権講座などへの参加者数	324人
(2)			
(3)			
(4)			

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	275人	322人	356人	335人
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,229	1,063	0	0	0	1,063

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<p>・人権講座では、アンケートで「自分自身を見直すきっかけになった」「今までの概念が変わった」等の意見が挙がっており、「気づき」のきっかけにできたといえる。平成30年度から新たに土日・夜間開催日を設置、チラシを作成し小中学校等へ配付、体験やグループワークなどの講話以外の動きの取り入れなどを試みた。今後も多くの方に参加していただけるよう工夫していきたい。</p>	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・人権に対する意識は高まりつつあるが、人権に関する問題も多様化している。
	住民ニーズの変化について	・生活様式が多様化している。お互い受け入れ、時には妥協しあわなければならない状況である。 ・人権講座ではアンケートを実施し、講座を受講した感想のほか、興味のあるテーマなども聞くようにすることで、住民ニーズを調べている。
	展開した事業は適切であったか	・人権を尊重する社会に繋がっていくと考える。参加者の意見からは、人権に対する意識を高める「きっかけ」になったという意見をいただいております。適切であったといえる。
	施策を達成するうえでの障害について	・開催時間や周知方法、講座内容について検討し、広く多くの人に参加してもらう必要がある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>・人権講座へ広く多くの人に参加してもらうための方策を検討し、実践する。具体的には夜間・休日の開催や、チラシの作成・配付等の継続である。</p>
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<p>・人権講座においては、アンケートを基に住民が希望するテーマを設定するようにしている。</p> <p>・人権標語ポスターの部数の見直しや人権教育広報紙みどりのページ削減等を行い、コストの削減も進めている。</p> <p>・人権講座などのイベントについては必ずホームページに掲載し情報の発信を心がけている。</p>
----------------------	--